

20012

PM, ICD, CRT 移植術時における患者・術者・看護師の被ばく線量の報告

<sup>1</sup>JA 愛知厚生連 豊田厚生病院

村山 和宏<sup>1</sup>、鷹羽 正悟<sup>1</sup>、小林 晋也<sup>1</sup>、小寺 直人<sup>1</sup>、阪口 明<sup>1</sup>、伊藤 友彰<sup>1</sup>、小澤 功<sup>1</sup>

【目的】PM・ICD・CRT 移植術時の被ばく線量の報告は少ないのが現状である。特にCRT 手技CS リード挿入時には、検査時間が長時間にわたり行われることが多く、透視時間が増してしまうケースが多い。実際に1 検査あたりどのくらいの線量値を示すのか把握することで、医療従事者が被ばく線量についての関心を持ち、日常業務に取り組んでもらうことも今回の目標である。PM・ICD・CRT 移植術時の、被ばく線量を調査したので報告する。【方法】(1) ファントム実験として、IVR 基準点における線量測定を行った。(2) PM・ICD・CRT 検査ごとに、透視時間、装置表示値を集計した。(3) 鉛エプロン内側外側にポケット線量計を装着し、医療従事者の散乱線被ばく線量を測定、集計した。【使用機器】血管撮影装置(SIEMENS AXION Artis dBC)、ポケット線量計(ALOKA MYDOSE MINI PDM-112, 117)、胸腹部用X線水ファントム(JIS-Z4915)【結果】IVR 基準点における線量測定の結果、線量率は6mGy/min であり、診断参考レベルより下回っていた。透視時間の平均値は、PM(18.1min)、ICD(13.4min)、CRT(54.1min)、装置表示値の平均値は、PM(177.8mGy)、ICD(118.7mGy)、CRT(648mGy)であった。術者、看護師のCRT 時ポケット線量計(外側)の平均値は、PM・ICD 時と比較し、術者で約5.5倍、看護師で約2~3倍と高値を示した。【結論・まとめ】検査時被ばく線量を実測、数値化することで、医療従事者の被ばくに対する意識、関心が高まった。今後も、線量を把握管理することで、医療従事者及び患者の被ばく線量低減に努めていきたい。